

## よりよい学びにつなげるには

GIGA スクール構想が始まり、すでに8年が経ちました。新しい学習指導要領の内容に基づき、準備をすすめていたときには、これほどまでに急速に学校現場に取り入れられるとは思いませんでした。

そのきっかけはコロナウィルスの蔓延により学校が臨時休校となり、児童生徒が学校で学ぶことができない状況を何とか打破しようというものでした。端末が入る前は、学校と児童生徒、家庭のつながりを切らないように、そして、少しでも子供たちの学習が充実するように各学校が工夫しました。私もその当時は、教職員で協力し、何ができるかを考えました。拡大提示機をカメラ代わりにし、それを学校のパソコンにつなげ、家庭にいる子供たちと on-line でつなぎました。子供たちと担任が楽しそうに話をしている姿が今でも目に浮かびます。

さて、そこから8年。GIGA 端末を使用しての学習も様々な工夫がなされるようになりました。一人一人の考えを共有するアプリ、高速ネット環境を用いた調べ学習、我々大人は苦戦しそうなことでも子供たちは意欲的に取り組み、操作も的確になってきています。

一方で、話を聞く・文章を書くといった力が低下してきているのではないかという意見も出てきています。そんな中、2030年には正式な教科書としてデジタル教科が導入されると言われています。子供たちにより良い学びにつながるのかどうか、検討が重ねられているようです。

先日読んだ新聞の記事の中に、このデジタル教科書に関する記事がありました。全国の小学校長にアンケート実施。回答者149名のうち9割が小学校低学年で紙中心の教科書の方がよいという希望を出したそうです。

では、なぜ、紙中心の教科書が良いと答える学校長が多かったのでしょうか。紙の教科書は、集中して読み書きできること、ページをめくる・教科書の厚みを感じるなど手先を動かすことが必要であるという理由が多いようです。端末ですと、スクロール・拡大・縮小等の操作に集中し、文章の内容が入ってこない、全体像の把握が難しいなどの理由が挙げられます。

ただし、デジタルの方がメリットのある学習もあります。外国語の学習などでは、端末の一部をクリックすれば、ネイティブな発音が流れきます。体育であれば、器械運動などの見本となる映像がすぐに見ることができます。

目の前にいる子供たちの実態をしっかりと把握し、どのような力を身に付けさせるのか、その力を身に付けさせるためには、どのような教材が必要なのか、ここをしっかりと押さえていけば、おのずとどのような教科書が適切なのかが見えてくるのではないかと考えます。極端なことを言えば、学校ごとに使用する教科書が違っていいのかもしれないかもしれません。現時点での制度では難しいことですが…。

いずれにしても、2030年までは、まだ時間があります。「子供たちのよりよい学びのために」を念頭に、しっかりと議論を重ねていきたいものです。